

研究発表もうしこみフォーム

氏名：安木新一郎

氏名のローマ字表記：YASUKI Shinichiro

所属：函館大学

専門分野：貨幣史、複雑系経済学

発表のタイトル：モンゴル帝国貨幣制度のルーシにおける定着

発表要旨（600字～800字程度）：

14世紀後半に、元朝から独立した明朝や高麗・朝鮮では、モンゴル帝国の貨幣制度である鈔（国家紙幣）の発行を計画したり実施したりしたものの、結果的に、鈔制度は定着せずに終わった。

これに対して、14世紀後半から、リトアニア、モスクワ、トヴェリ、ノヴゴロドなどから構成されるルーシでは、銀貨と銅貨を基本とするジョチ・ウルスの貨幣制度が浸透し、貨幣呼称なども借用され、タムガ（占有標）やアラビア文字が打刻された貨幣が流通していった。

リトアニア大公国の支配するキエフでは、1362年頃からジョチ・ウルスの銀貨を粗雑に偽造していたが、1386年から「宝結び Tibetan knot」の刻まれた銀貨が発行された。

1380年にジョチ・ウルスを再統一したトクタミシュは、ティムールとの全面戦争の前に、リトアニア・ポーランド合同を作らせ、西方の安定化を達成した。トクタミシュに臣従したポーランド国王ヨガイラとリトアニアの支配者ヴィタウタスは、トクタミシュから正式に貨幣発行権を与えられ、モンゴル帝国を示す宝結びを貨幣に打刻することが許されたと考えられる。

東方とは異なり、西方でモンゴル貨幣制度が定着した理由として、西方がモンゴルに従属し続けた点が重要で、一兵も使わず西方を従わせたトクタミシュの外交能力の高さが注目されるだろう。